

2025 年度 夏期集中講義のご案内

(文学部文化史学科設置科目、**春学期登録**、2単位)

文化史特論 (5)

——古代中世の家と親族、古記録(日記史料)研究の現在——

國學院大学文学部教授 高橋秀樹先生

場所：今出川校地 (Ry105 の予定)

日時：8月19日(火)～22日(金) 2講時～5講時

文学部文化史学科では夏期休暇中に文化史特論(5)を**集中講義**として開設している。受講する場合は履修要項とシラバスを参照して、**春学期科目として登録**していただきたい。

2025年度出講をお願いした高橋秀樹先生は、学習院大学大学院、文部科学省教科書調査官を経て、現在は國學院大学と東京大学において教鞭をとられている日本古代中世史の著名な研究者である。**古代から中世への広い視野のもとで日本の氏と家の特質を捉える親族研究**でも日本歴史学界における指導的研究者であり、また「**古記録(日記史料)研究**」、**史料論**においてもその第一人者であり、記事のみならず物に即して文化史的に日記をとらえる総合的研究は他の追随を許さないものである。名著『古記録入門』は日本中の学生たちの座右の書である。さらに、先生の教科書調査官という体験は、歴史教育についてのあり方について、教職課程を履修している学生たちにも間接的な示唆を与えてくれるかもしれない。

集中講義という形式のおかげで関西に出講していただくことができた。今回の講義では、前半二日で古代中世の家と親族について、後半二日で古記録研究の現在について講じていただく予定である。最先端の研究方法を学べる**貴重な千載一遇のチャンス**である。関西と関東とでは歴史認識や分析方法で異なる点も多く、東京の学風を背負われた高橋先生に接することで、皆さんの**研究方法や歴史観を見直す契機**ともなるであろう。

今年限りの貴重な機会、**日本古代・中世史の学生**はいうまでもなく、**広く古記録(日記)史料を用いる学生全般、日本の親族制度と氏・家などに関心がある学生、さらに国文学、法制史などを専攻する学生**にも大きな刺激を与えてくれる講義である。積極的な登録をお勧めする。文学部の他学科や他学部で関連諸学を研究している熱意ある学生にも登録・聴講を呼びかけたい。

〔高橋先生のご著書・ご論文〕

高橋秀樹『日本中世の家と親族』(吉川弘文館, 1996)

高橋秀樹『中世の家と性』(山川出版社, 2004年)

高橋秀樹『古記録入門』(吉川弘文館, 2023)

など